

## 英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3 2/4 2/5 共通仕様	第1問	空所補充問題(文法・語法、熟語)	やや易
	第2問	整序英作文問題(文法・語法、熟語)	標準
	第3問	対話文完成問題	やや易
	第4問	会話文および広告読解問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

椋山女学園大学の入試問題では、3日程より試験日を選び、最大3日程全て受験可能である。また、2科目を選択して受験する形式をとり、試験問題は2科目併せて連続した120分となっている。したがって、各科目にかけるバランスにもよるが、60分程度が解答時間となるであろう。3日程を通して全てマークシート方式で、大問構成は、文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題と広告読解問題によって構成された大問が1題、長文読解問題2題の計6題から構成されており、小問数は40間に統一されている。

第1問は、短文中の空所に適切な語句を補充する形式である。品詞の区別から時制や仮定法など、高等学校で履修すべき文法・語法や、基本的な熟語を中心とした問題が出題されている。第2問は整序英作文問題で、5つの選択肢を適切な語順に並べかえる形式である。日本語訳は与えられておらず、文の文法構造を的確に分析しつつ文意を確認する必要があるため、形式自体の難度はやや高めである。ただし、教科書レベルの文法・語法や、基本的な熟語表現・構文が中心であるため、問題としての難易度は総じて標準的であると言える。第3問は、2人による1～1.5往復の会話内に設けられた空所を補う形式である。会話特有の表現や知識を問う問題ではなく、対話全体の文脈把握ができていないかを問う問題が主となっている。特に、1.5往復の会話が提示されている問題では、代動詞などの指示語に注意しつつ対話全体の文脈を把握する必要があるため、多少の注意が必要だ。第4問では、長めの会話文読解問題と、英語で書かれた広告を題材とした問題の2つの形式が出題されている。会話文読解問題は、日程によって多少その構成は異なるが、空所への適語(句)補充、下線部の適意選択、内容に関する発問を主軸に構成されている。それぞれの問題で与えられている選択肢はさほど難しくなく、基本的な会話表現と文法事項を使った文章であるが、長めの会話を読解する力が必要となる。広告読解問題は、内容に関する発問が中心であるが、誤っている選択肢を指摘する問題、つまり広告の中で扱われていない情報を指摘する問題がある。故に、広告内の情報一つひとつを確認する必要があり、選択肢全ての情報の真偽を確かめるためにある程度の時間を要する。第5問・第6問は、入試標準レベル程度の語彙や表現を用いた長文読解問題である。空所補充・語義選択・内容に関する発問・タイトル選択などの問題を用いて、文章の読解力と理解度を測っている。なお、語注が付されていないため、教科書レベルよりも一段階上の語彙力も必要となってくる。

## 英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 学習対策

全体的な難易度は概ね標準であり、高校3年間で学習する基本事項を完璧に習得していることが求められている。ただし、試験時間を60分と想定すると、問題数の割にあたるべき英語の分量が多く、十分な読解訓練と演習による準備が求められる。これを踏まえ、梶山女学園大学入試を突破するための学習ポイントをまとめてみよう。

## ●基本的な文法・語法は完璧に習得しよう

試験全体を通して、「基本文法の完璧な習得」が問われている。特に、第1問・第2問は、文法・語法の基本的な知識やその定着度を測る問題であるため、自信をもって全問正解できる訓練をする必要がある。第2問の整序英作文にあたるには、品詞の知識から仮定法や分詞の仕組みまでの高校履修事項の理解と演習を徹底し、きちんと習得しておきたい。また、その中で出てくる重要表現や構文をおさえておくことも必要である。特に、梶山女学園大学の整序英作文問題では日本語訳が付されていないので、整序英作文の演習を行う際には、付された日本語訳を隠して取り組み、さらに良い訓練となるだろう。全体の分量を考えると、この2つの大問にかけられる時間はなるべく少なくしたい。演習時はより少ない時間で完答できるように反復しつつ取り組み、後の大問により多くの時間を割り当てられるように準備しておこう。

## ●単語・熟語力は一段階上を目指して

第5問・第6問には語注が付されていないことからわかるように、教科書レベルの語彙力で十分であるとは言えない。まず、教科書や授業で扱うテキスト等に出てくる単語・熟語は全て意味をおさえておこう。その際に、品詞も併せて覚えるのが良い。その後で入試標準レベルの単語・熟語帳にあたるのはもちろんだが、授業で出会った単語・熟語が基本であることを肝に銘じて、語彙力増強を目指すことが鍵となる。

## ●文章を読む習慣をつけて、たくさんの文章にあたろう

読解問題の難易度は標準であるが、読解と解答にあてられる時間に余裕がないことが予想されるため、文章を読む速さと情報の処理速度を上げておく必要がある。パラグラフ・リーディングなどの手法を活用するだけでは足りないと考えられるため、毎日1文章でもいいから、コツコツ文章を読む訓練をし、文章にあたる習慣をつけることが大切である。英文を読むのが苦手な者は、高校受験レベルや高1レベルの易しめの文章や、一度読んだテキストの文章を読むことからスタートし、徐々に難度を上げていったり、まだ読んだことのない文章に挑戦したりすると良い。ある程度文章が読めるようになったら、問題演習も開始し、同時にパラグラフ・リーディングなどの読解手法を学んでいくと、時間内で確実に読解できる力が身につくであろう。とにかく、付け焼刃の対策に頼らず、長期的な対策を立てて試験に臨むことが肝心である。

## ●過去出題された問題を分析して、やるべきことを書き出してみよう

今まで見てきたように、時間との勝負になることが予想されるため、戦略を立てて試験に臨むことも大切である。まず、一か年分の過去問を解くにあたり、それぞれの大問（第4問は会話文読解問題と広告読解問題それぞれ）にかかった時間をメモしておき、自分の苦手な大問を分析することと同時に、時間がかかりすぎている大問もチェックしておこう。加えて、読解問題では、文章を読むのに時間がかかっているのか、それぞれの設問に答えるのに時間がかかっているのか、という点にも注目しておくとともに良い。このような分析を通して、弱点の克服を行う上で効率よく解答するために必要なことも把握しておけば、確実な合格のための対策も効率よく行える。